



TITLE:

健康人間学例会記録（7）
（1994年1月より1994年12月まで）

AUTHOR(S):

CITATION:

健康人間学例会記録（7）（1994年1月より1994年12月まで）. 京都大学医療技術短期大学部紀要. 別冊, 健康人間学 1995, 7: 83-85

ISSUE DATE:

1995

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/49521>

RIGHT:

1994

Ⅶ. 医の倫理, バイオエシックス

b.

8. 立川昭二：臨死のまなざし. 東京：新潮社, 1993
9. リサ・ベルキン：いつ死なせるか ハーマン病院倫理委員会の六ヶ月 (宮田親平訳). 東京：文藝春秋, 1994
10. 前野一雄：いのちの聖域. 東京：三五館, 1994
11. 田中伸尚：なぜ医療が信用できないか. 東京：社会思想社, 1994

Ⅷ. 性, 誕生, 家族

b.

2. ゴンゲール：18世紀の女性. 東京：平凡社, 1994
3. 河合隼雄：中年クライシス. 東京：朝日新聞社, 1993
4. 河合隼雄：青春の夢と遊び. 東京：岩波書店, 1994

Ⅸ. 死

b.

2. 立花 隆：生, 死, 神秘体験. 東京：書籍情報社, 1994
3. 立花 隆：臨死体験 上下. 東京：文藝春秋, 1994

健康人間学例会記録(7)

(1994年1月より1994年12月まで)

第45回研究会 1994年1月27日(木)

テーマ：狭心症の功罪

発題者：藤田 正俊(衛生技術学科)

第46回研究会 1994年2月24日(木)

演題：“Problems in contemporary Swedish health care and how they are dealt with”

講師：Dr. Anders Eklund (Karolinska Institute, Stockholm)

通訳：小西紀一(作業療法学科)

第47回研究会 1994年5月19日(木)

テーマ：免疫についての基本的知識・考え方

発題者：熊谷 俊一(衛生技術学科)

第48回研究会 1994年7月22日(金)

テーマ：免疫についての基本的知識・考え方

PART II

発題者：熊谷 俊一(衛生技術学科)

第49回研究会 1994年9月16日(金)

テーマ：生体部分肝移植の現状と展望

発題者：稲本 俊(看護学科)

第50回研究会 1994年11月24日(木)

テーマ：音楽療法について

発題者：小西 紀一(作業療法学科)

健康人間学に投稿される方は下記の投稿規定に従って下さい。

京都大学医療技術短期大学部紀要投稿規定（平成5年6月16日改定）

投稿：投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員（元教職員を含む）が著者、または共著員であるものに限る。

論文の受付：原稿（表紙、本文、図、表など）はコピー2部を添え（計3部）、当該年度の6月30日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付および全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。

原稿の書き方：原稿は次の規定に従って書かれたものであること。

1. 表紙（原稿第一枚目）の前半には表題、著者名、所属およびその所在地、ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお外国語原稿の場合は、上記各項の日本語を併記する。

後半には原稿の枚数、図、表の数、別刷希望部数を書く。筆者の所属の表記は、筆頭者は無記号、共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に*、**……印をつける。

2. 原稿には、英文の表題、著者名、所属、抄録（20行、または200 words程度）およびKey words（8語以内）をつける。著者名の姓は、大文字で表記する。
3. 欧文原稿及び英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き（論文の内容上とくに必要な場合は縦書き）原稿用紙に清書する。ワープロ使用の場合も、400字詰とする。外国語固有名詞（人名など）は原語を、一般に日本語化された外国語は、片かなを用いる。

度量均等衡は、CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行あける。原著論文の緒言（Introduction）、材料（Materials）、方法（Methods）、結果（Results）、考察（Discussion）などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

1., 2. ……行の第1字目に記す。

1), 2) ……行の第2字目に記す。

5. 図（Figure）および表（Table）にはそれぞれ通し番号をつける。図版（Plate）や写真（原則として白黒）は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は（14×20 cm）以内にまとめる。図は台紙（20×26 cm以下）に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。図・表の説明文は、まとめて原稿の末尾につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、表の挿入位置を朱記し明示する。

6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。
7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用文などの右肩に、その文献番号を¹⁾・^{1,3,6)}・²⁻⁵⁾のように記す。

雑誌の場合

著者名（6名以下の場合は全著者名、7名以上の場合は最初の3名を記し、“他”または“et al”をつける）、表題、掲載誌名、発行年（西暦）、巻数（必要であれば号数）、頁数（終一始）の順に記す。雑誌略名は、日本医学誌略年表（日本医学図書館協会編）

および Index Medics に従う。

〈例〉

- 1) Sakaguchi K, Jameson EW: Two new fleas from Japan. J Med Zool 1959: 10, 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 山内和美, 三井政子: 性周期記録表の試み。母性衛生1978: 19, 76-82

単行本の場合

著者名(雑誌の場合と同様), 表題, 編者名, 書名, 版数, 発行地, 発行所, 発行年(西暦), 引用頁(始-終)または(1-終頁)の順に記す。なお著者と編者が同一の場合には, 著者名, 書名の順とする。

〈例〉

- 1) Wintrobe MM: Clinical Hematology: The erythrocyte. 7th ed. Philadelphia: Lea and Febiger, 1974: 80-220
- 2) Schwartz TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205
- 3) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈, アミラーゼ。富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎, 検査診断マニュアル。第1版。東京: メヂカルフレンド社, 1978: 96-99
- 4) 城戸幡太郎: 文化心理学の探求。東京: 国土社, 1970: 1-390
- 5) Pedretti LW: 身体障害の作業療法(小川恵子, 山口 昇, 青木真由美訳)。東

京: 協同医書出版社, 1985: 103-115

同じ文献を再引用する場合

〈例〉

- 1) Eliot TS: The complete Poems and Plays. London: Faber & Faber, 1969: 25
- 2) Yeats WB: A Vision. London: Macmillan, 1937: 13-17
- 3) Ibid., 18
- 4) Op. cit., The Complete Poems and Plays, 78
- 5) 砂原茂一: リハビリテーション。東京: 岩波書店, 1980: 2028
- 6) 中野 昇: 腰痛の臨床。東京: 南江堂, 1976: 56-62
- 7) 同上, 31-35
- 8) 前掲書, リハビリテーション, 45-48

原稿の枚数: 原著論文, 総説は原則として図, 表などを含め刷り上り10頁以内, 短報などは同じく4頁以内, 学会・研究会の抄録などは同じく半頁以内とする。なお, 本誌1頁は, 400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は手札大(9×13 cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。

校 正: 著者による校正は, 再校までとし校正時における内容の変更や追加は認めない。

印 刷 費: 原画の描画を外部に依頼するときや, カラー写真印刷を希望するときなどは, その経費は著者の負担とする。

別 刷: 別刷は50部を単位とし, 50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。